

2022年度メーデー回答

瀬戸市からメーデーの回答が届きましたので一部をお知らせします。詳細は、HPをご覧ください。

1. 各校への教育予算の増額をしてください。

【回答】教育予算については、既に様々な取組を進めているところですが、引き続き、必要な予算の増額に向け取り組んでいきます。

2. 教職員の健康・労働条件と児童・生徒の健康・安全について

(1) 児童・生徒や教職員にとって心身ともに負担となっている過熱傾向にある部活の在り方を見直し小学校部活を廃止してください。また、猛暑日の活動はやめるように指導してください。

【回答】部活動については、国や県の方針を踏まえ、市としても具体的に検討していきます。教員の長時間在校はもちろんですが、子どもたちの健康面も考慮して、部活動のあり方、部活動の目的、地域移行など様々な角度から検討していきます。また、猛暑を考慮して練習試合の自粛や1日練習を取りやめる、猛暑日は2時間までなど、子どもたちの安全を第一に考えていきたいと思っています。

(2) 市の責任において教職員の長時間労働がなくなるようにしてください。以下のような内容に留意してください。

・当面開錠を7時半以降、施錠時刻を19時以前とする。
・ノー残業デーを徹底すること。
【回答】多忙化解消については、学校行事、会議や研修の精選など取り組んでいきます。今年度も夏休みに学校閉庁日を設定します。

(3) 「在校時間状況記録」より把握できる超45時間・超80時間・超100時間の時間外労働をしている教職員数及び氏名を、教育委員会の責任において毎月把握し、対策を講じてください。また、校長が該当者に対しての改善策を示し教育委員会に報告するとともに、該当者が医師の面接指導を確実に受けるように指導してください。

【回答】各校の在校時間記録は毎月把握し、80時間超えの職員に対しては医師の面談希望の有無を確認するなど対応していきます。研修・組織・会議内容などの再考を継続するよう今後も働きかけを続けていきます。

(5) 校長のメモでなく、時間外勤務の割振簿を作成し、

割り振りが適正に行われるようにしてください。

【回答】勤務の割り振り変更がある場合は適切に行われていると把握しています。

(9) パワハラ防止に努め、「パワハラ防止指針」を毎年全員に配付してください。また、セクハラ・マタハラなどのハラスメントをなくするための研修や啓発活動を進めてください。

【回答】パワハラ、マタハラについては、県の規定に準じます。働きやすい職場づくりについて指導をしていきます。これらのことは働きやすい職場づくりにとって重要事項ですので、校長会、教頭会などでの指導を継続していきます。

(13) タブレットの電磁波対策や安全使用に関するガイドラインを作成してください。また、長時間利用が脳の発達を阻害するという研究報告があります。各種研究結果を踏まえた使用上の留意点を市民に周知するとともに適切な対策を行ってください。



3. 教職員の働く環境と福利厚生について

(1) 男女別の横臥できる休養室・シャワールームおよび乾燥機をすべての学校で設置できるように、計画を進めてください。現在の設置状況と今後の計画を明らかにしてください。

【回答】現状の建物での休憩室及び更衣室等の整備は、建物の構造・スペース上に支障が生じるため、長寿命化改修工事に併せて実施を考えています。なお、乾燥機の設置については現在のところ予定はありません。令和4年度4月現在の状況は以下のとおりです。

・男女別の休憩室(12校)
※にじの丘学園は1校としてカウント
・シャワールーム(14校)
※にじの丘学園は1校としてカウント

4. 憲法・子どもの権利条約に基づいた子どもの人権擁護の推進、開かれた学校づくり、子どもを取り巻く環境の改善について

(8) 子どもの権利条約に基づき、実効ある瀬戸市の「子ども権利条例」を作成してください。



5. 学校の施設・設備について

(4) 体育館及び外トイレの改修を早急に行ってください。

【回答】体育館について避難所機能も鑑み危機管理課と連携しながら改修に随時取り組んでいます。

6. 教職員の配置について

(3) 養護教諭が泊を伴う行事に参加の場合の人員を確保してください。

【回答】市独自の配置及びその他の人員確保は厳しい状況であります。予算確保に努めていきます。

7. その他

(9) 地震等の避難場所となっている学校の防災状況を常に留意し、避難場所としての価値を高めてください。

【回答】避難所の指定や整備等については市の危機管理課で行っておりますので、危機管理課と検討していきます。

(16) 団地学校統廃合計画を見直し、市民・地域・父母・教職員の合意形成を図ってください。

【回答】葵野団地における公立学校の適正規模・適正配置について、各校のPTA総会や地域に出向き、説明を今年度より行っているところです。今後も市民・地域・保護者・教職員として教育委員会の合意形成を図りながら、計画実現に向け取り組んでいきます。

職場での悩みごと、疑問・意見をお寄せください。

組み組んだ

遠足、宿泊行事の時期などの見直し
PTAとの夏休み中の校外補導廃止
勤務時間前のあいさつ運動を任意参加に
週の指導計画の反省欄への記入を不要に
電話対応の見直し

に依頼 ポラン ティア	年末年始などの校内見回り、えさやり
	行事の受付
	校外学習の引率補助
	校舎内外の清掃

文書の項目を減らすなど、通知表を改訂
家庭訪問を、児童の家の確認に変更
夏休みの出校日を廃止
運動会や学習発表会の時期や内容の見直し

学校運営の会議を授業時間内に
全教員がまとめる現職教育研究集録を
なくした
学年通信のひな型化

写真や教材の購入は業者に委託
教育課外のクラブ活動をなくした
繁忙期の4月と9月初めを全日5時間授
業に
成績処理のため学期末に5時間授業を設定

職員会議はペーパーレスの分散開催に
学級経営案を簡略化
宿泊行事の集金は業者に委託
通学研指導はPTAと連携

さらに「欠けているのは、国の取り組み」といい、教員は、仕事の特権性から教職員給与

教育問題に詳しい明星大学の樋口修智教授（教育行政学）は、教員の長時間労働改善について「学校では校長がリーダーシップを發揮して時間管理や業務改善に取り組むことが大事」と指摘する。同時に、国や自治体が、教員業務支援員や学習支援員らの配置を充実させる必要性を挙げ、「小・中学校の教員は一週間に二十四時間は授業をする。それを十八時間程度に削減すべきだと訴える」。

識者「国は残業手当支給を」

特別措置法（給特法）で殘學代が支払われず、一律で4%の上乗せがあるのみ。一九六六年度の調査に基づいた月約四八時間の殘學の調整額分だ。ただ文科省が掲げる上限四十五時間分すべてを支給するのと膨大な予算が必要となる。そこで樋口教授は月二十時間分を支給する仕組みを提案。「手当を出さないから校長らは管理する意識が動かない。手当を出さずことで勤務が抑制される」。さらに、新学習指導要領で教育指導が肥大化している点にも触れ、「システム化する必要がある」とも話した。

中日新聞 (2022. 6. 9) より

豊橋市を中心に、東三河の旅を8月19日(金)に予定しています。詳細は次号でお知らせします。



地域やPTAも協力

先生が足りない1

中日新聞報道(6/11)

によると、日進市では小中3校が教員欠員の現状です。産休・育休や病気療養等で教員欠員ができることは瀬戸市でも例がありましたが、年度当初からと驚きですが、子どもに不利なことを避けるため、先生不足は明らかになりました。先生不足は明らかに行政の責任が問われます。教職員の長時間労働や教員免許更新世のため教員志望者が少なくなっているといわれています。

心して働き安
ある労働条件の整
備が根本的に問わ
れています。



中日新聞6月9日に、布袋
小学校の行事や業務負担の見
直しの記事がありましたが、各
地域の学校で直り進んだので
必要ですが、思い切った改革が
必要です。同日の、ついでに樋口修資

管理職が
さつさと
帰って、
職員が
残って仕事
おかしい。
管理責任者は
校長・教頭
です。

弱い立場の人に
仕事の押しつけ
それって
パワハラ
じゃない？

先生が足りない2

名城大教授の指摘は示唆に富んでいます。小手先の改善では限界にきていると言えます。現場では、校長のリーダーシップのもと、時間管理と業務改善に本腰で取り組むことです。同時に、国や自治体に対して教育予算の大幅拡充、学修内容のスリム化、正規教員の増員などを求めていることが大事です。

正規の先生を増やそう
長時間労働を無くそう

平和行進



雨の中、60名が市役所前河原に集い、集会を行いました。

戦争体験を語り継ぐ会

6月11日(土) パルティセ
とで戦争体験を語り継ぐ会が
行われました。今回は田原か
ら安間妙子さん・慎さんをお

招き、太平洋上で戦死した妙子さんのお父様の海軍少佐の立場から、戦況を重くお話しした。肉親への直筆の手紙に託した。戦場へいく父親が手帳に倒れた存在は、歴史の真実を伝える思いです。そしてこの手帳を託され、軍隊やGHQからの圧力にも屈せず、友達の家族に送ろうと必死で手帳を守り抜いた方の苦労は、とりも直さず、私たちが抱える矜持として深く感銘を受けました。(寺脇正治)

